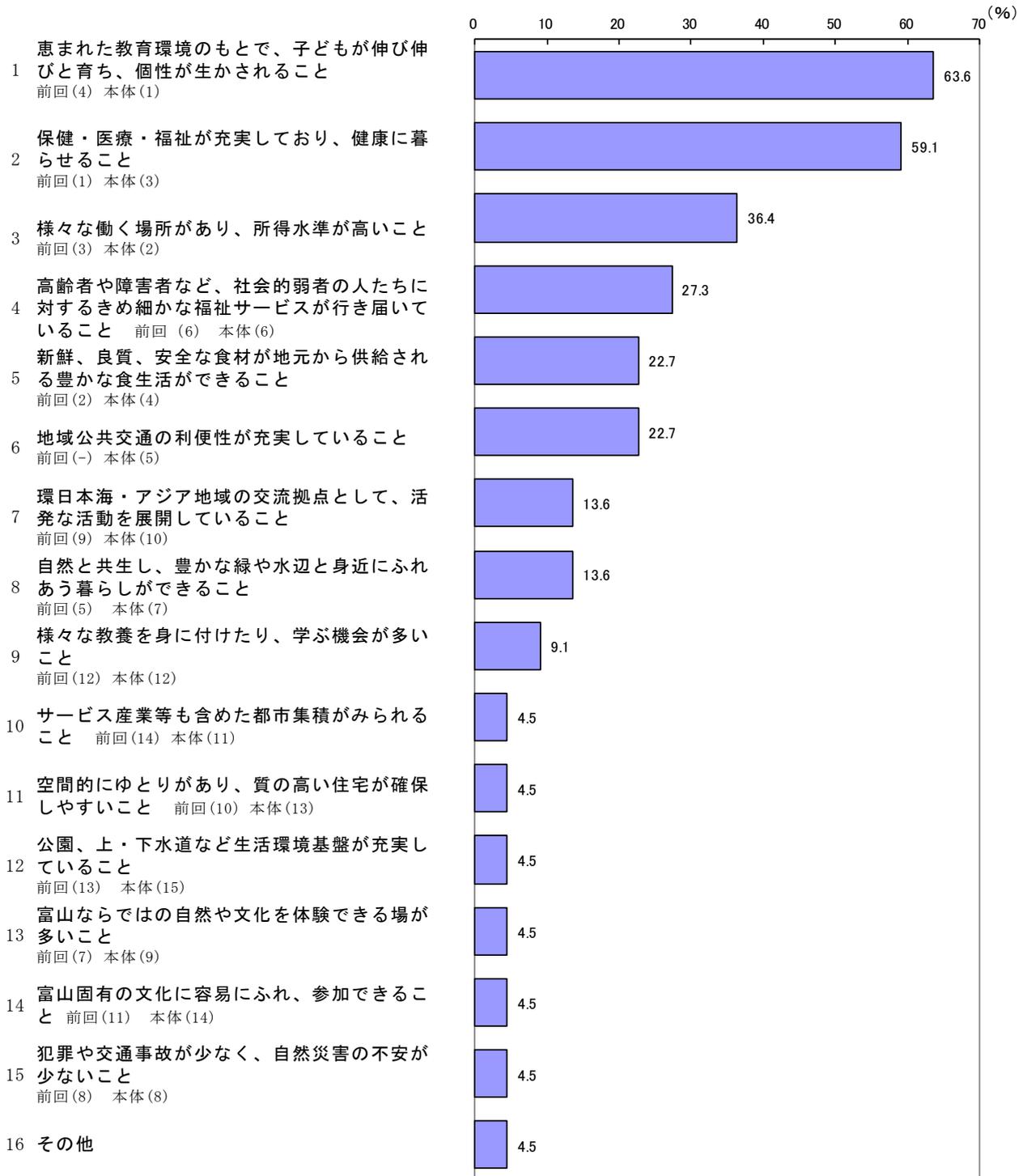


2. 富山の魅力形成のために特にどのようなことが重要か (3つ選択)

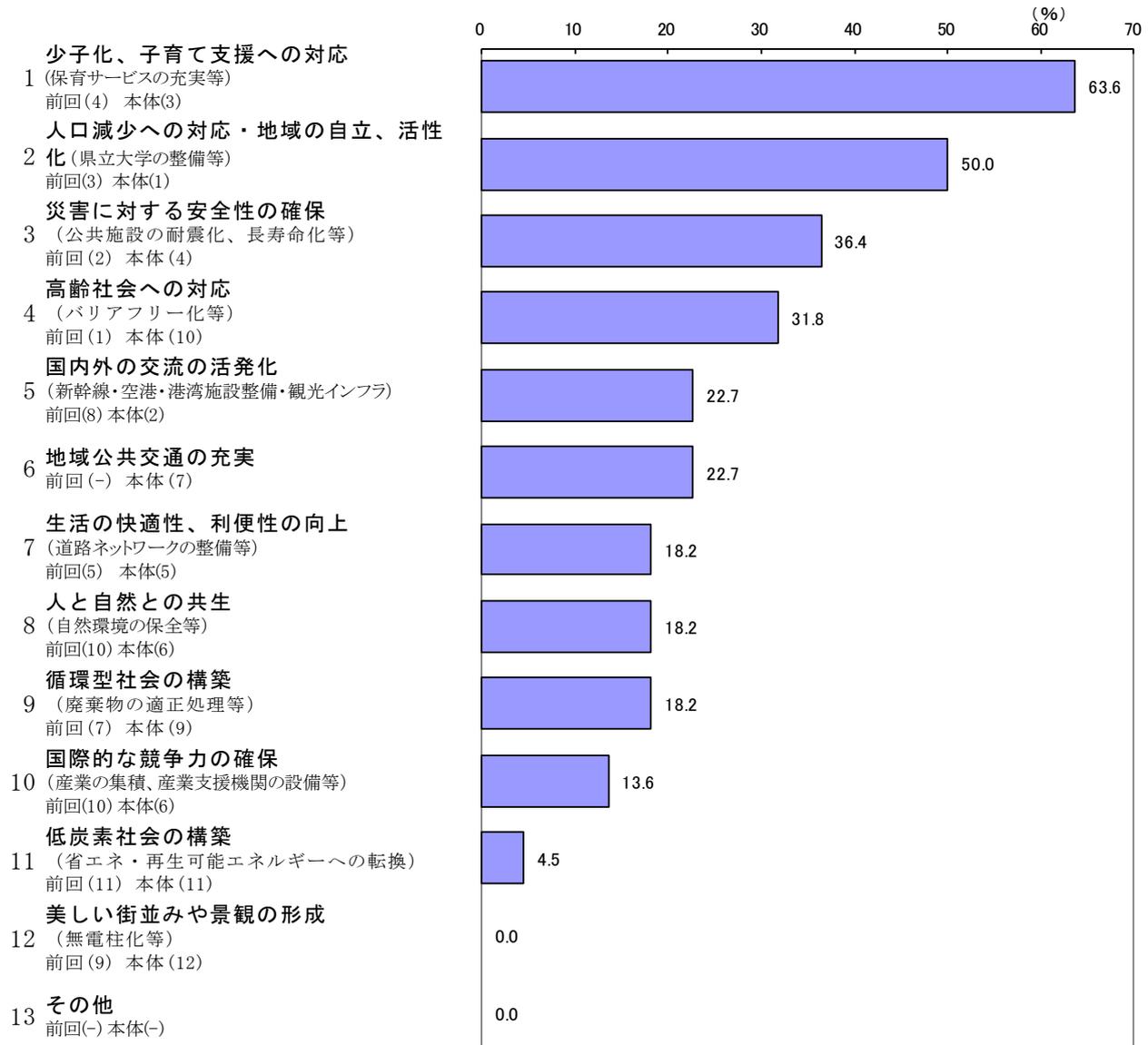
「恵まれた教育環境のもとで、子どもが伸び伸びと育ち、個性が活かされること」(63.6%)、「保健・医療・福祉が充実しており、健康に暮らせること」(59.1%)、「様々な働く場所があり、所得水準が高いこと」(36.4%)、の順となっている。



※16 その他への記載：若者の県内定着のため、企業の雇用環境の改善

3. 県土づくり(社会資本整備)施策としてどのような成果を重視して整備を進めるべきか (3つ選択)

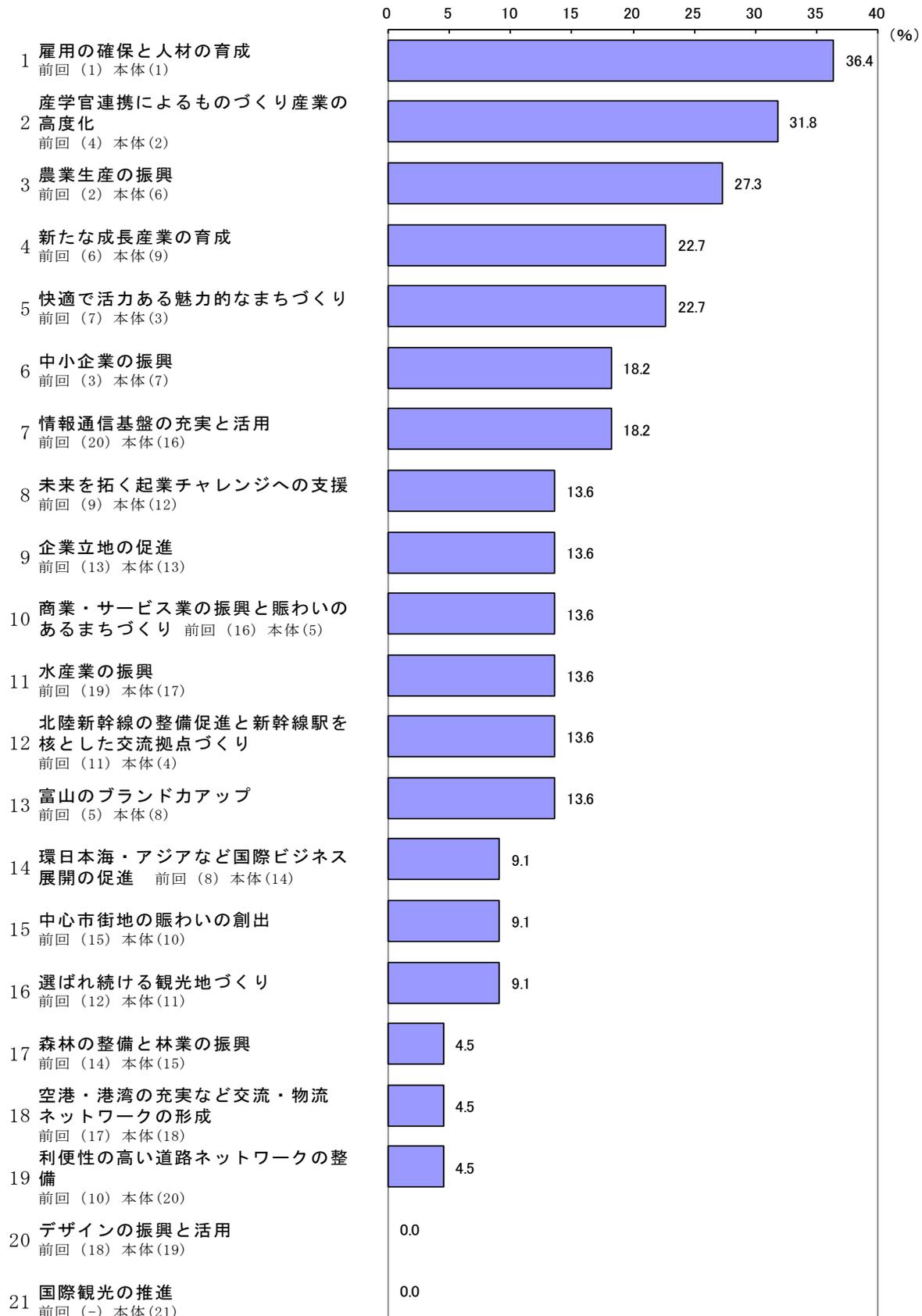
「少子化、子育て支援への対応」(63.6%)、「人口減少への対応・地域の自立、活性化」(50.0%)
 「災害に対する安全性の確保」(36.4%)、の順となっている。



4. 今後10年間を通して特に重点的に推進していくことが求められる施策は何か

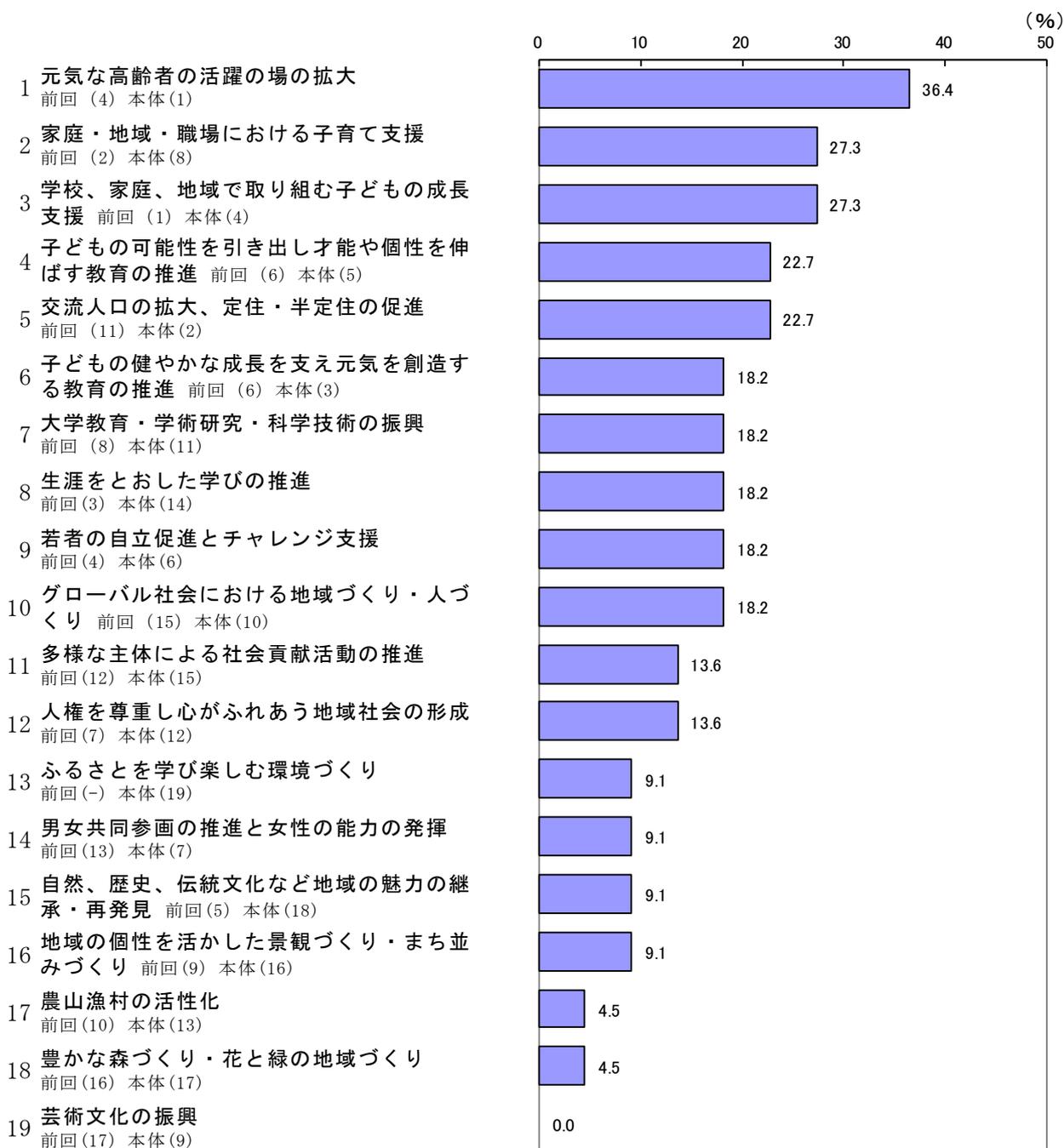
(1) 活力 (3つ選択)

活力分野では、「雇用の確保と人材の育成」(36.4%)、「産学官連携によるものづくり産業の高度化」(31.8%)、「農業生産の振興」(27.3%)の順である。



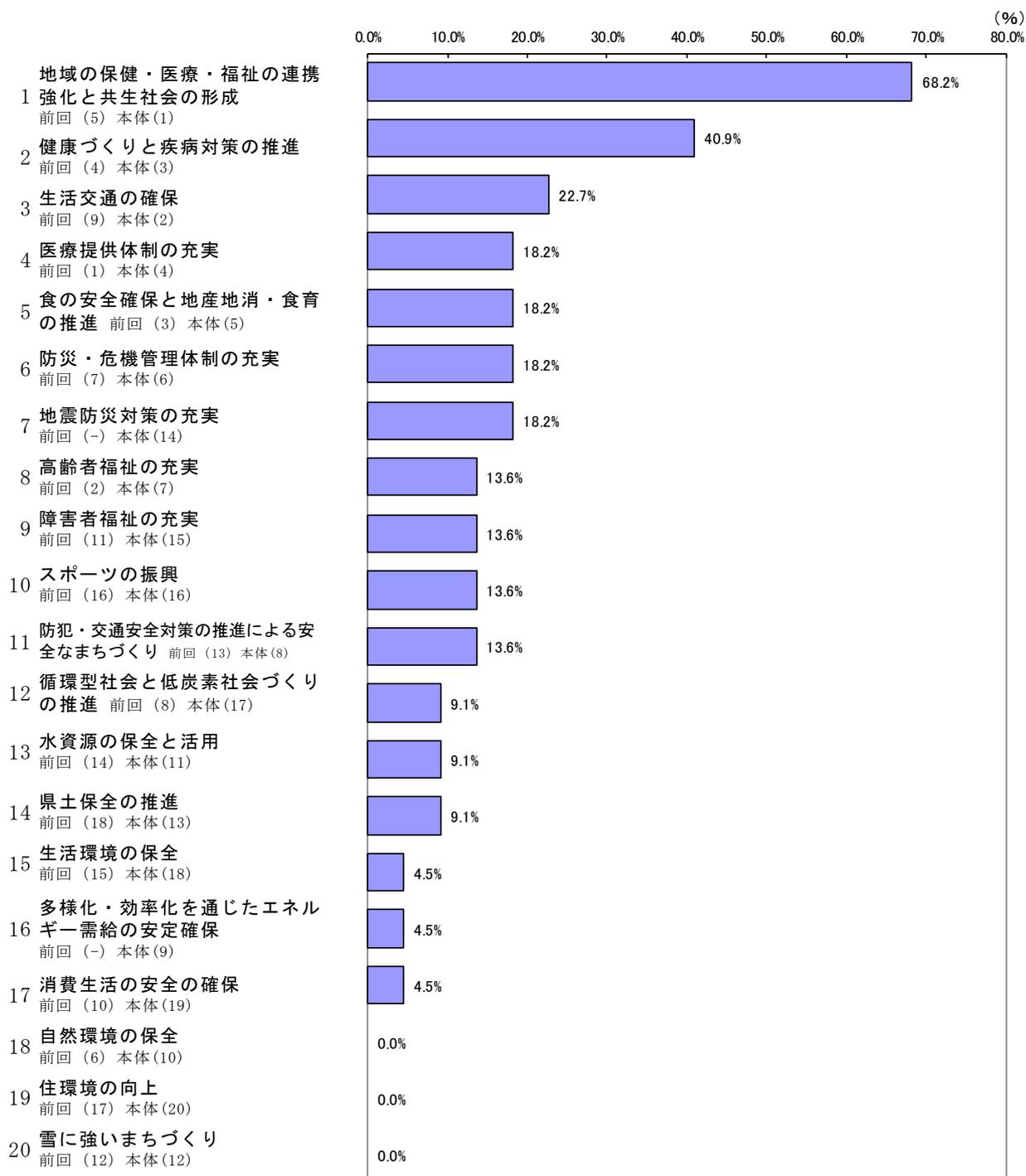
(2) 未来 (3つ選択)

未来分野では、「元気な高齢者の活躍の場の拡大」(36.4%)、「家庭・地域・職場における子育て支援」及び「学校、家庭、地域で取り組む子どもの成長支援」(27.3%)、「子どもの可能性を引き出し才能や個性を伸ばす教育の推進」及び「交流人口の拡大、定住・半定住の促進」(22.7%)、の順である。



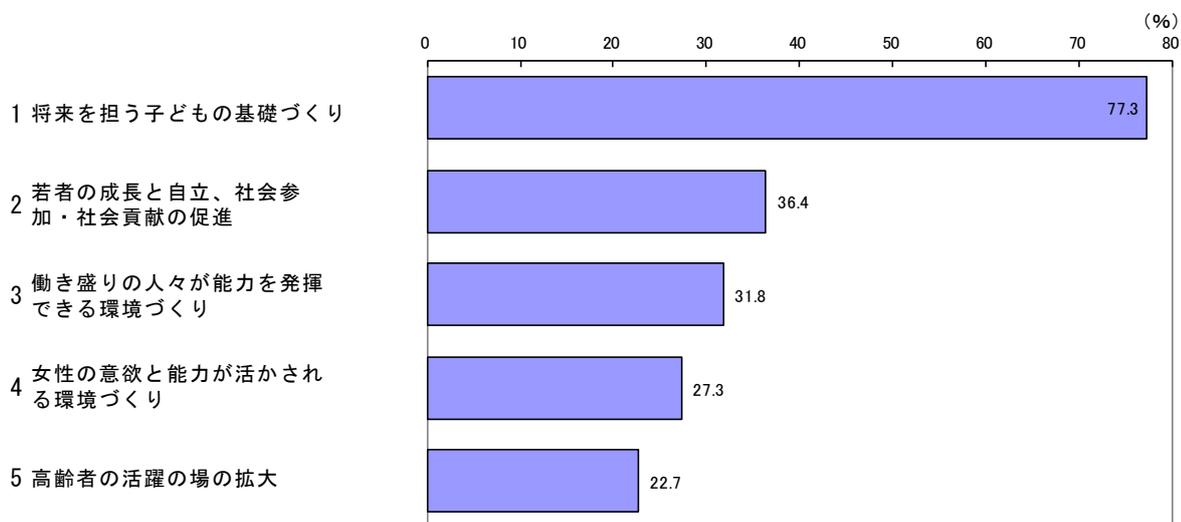
(3) 安心 (3つ選択)

安心分野では、「地域の保健・医療・福祉の連携強化と共生社会の形成」(68.2%)、「健康づくりと疾病対策の推進」(40.9%)、「生活交通の確保」(22.7%)、の順である。



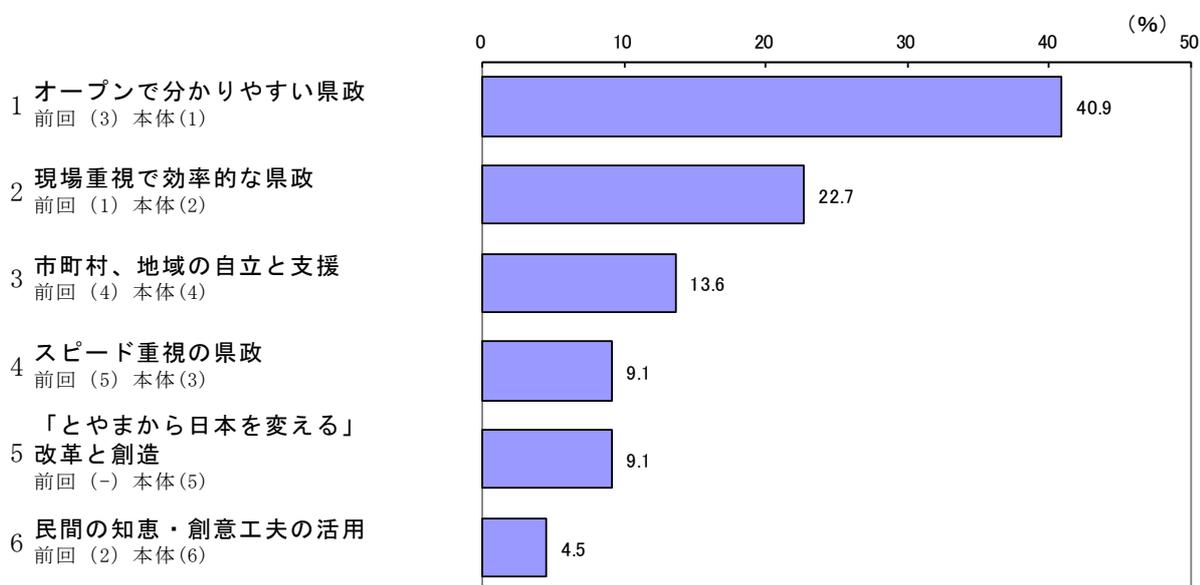
(4) 人づくり (2つ選択)

人づくりについては、「将来を担う子どもの基礎づくり」(77.3%)、「若者の成長と自立、社会参加・社会貢献の促進」(36.4%)、「働き盛りの人々が能力を發揮できる環境づくり」(31.8%)、の順である。



(5) 行財政改革の推進 (1つ選択)

行財政改革の分野では、「オープンで分かりやすい県政」(40.9%)、「現場重視で効率的な県政」(22.7%)「市町村、地域の自立と支援」(13.6%)、となっている。



審議会委員アンケート自由意見（抜粋）

○安心分野にいただいた意見

<p>4. 質の高い救急医療・リハビリ医療・在宅医療等の提供体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・少子高齢化の中で医療体制が財政的な理由によって大きく変えられようとしている。現在の体制も理由があって形成されているものであり、財政的な理由のみで変更することはないようにしていただきたい。
<p>5. 健康寿命日本一を目指す総合対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none">・病気になりにくい体、健康づくり対策が必要。地域をベースに、身近な所で誰でもいつでも健康づくりに参加できる環境があればよい。
<p>8. 地域包括ケアシステムの構築と共生社会の形成</p> <ul style="list-style-type: none">・防災訓練を通じて共生社会を目指す。①障害者（車椅子、視覚、聴覚、精神、知的、発達障害）が防災訓練に参加し、障害の内容に対応した救助の声かけ、避難誘導の方法など実施要領に基づき訓練する。②この訓練を継続して実施することにより、誰でも障害者に対する災害時の対応が理解可能となる。③この訓練が地域全般に広がれば、日常生活の中で、困っている人を見かけたら気軽に声をかけて、安全誘導ができる。駅ホームでの転落防止など、日常的に差別の解消につながる。・地域共生社会は、ある程度の社会貢献意識がなければ成り立たないが、富山県民には「ボランティア」という言葉を嫌う傾向が強いように思える。「ボランティア＝無償」ではなく、貢献度合いによって支援した人のQOLもアップするような仕組みが必要だと考える。・社会保障環境が厳しくなっていく中で公民協働し、地域ぐるみで支え合う地域共生社会づくりにより、安心・安全な暮らしを保障することが必要・一人暮らしの方に対して、孤独死等が生じないように、介護等とのかかわり方を地域が一体となってお世話できるような体制を講じられないか。
<p>9. 保健・医療・福祉の切れ目ない支援</p> <ul style="list-style-type: none">・富山型デイサービスで基準該当の部分（障害者・児）の加算がつかないところの補助金を考えてほしい。
<p>10. 介護・福祉人材の確保のための環境整備</p> <ul style="list-style-type: none">・介護現場では職員確保が難しく、介護報酬が下がっているため経営が厳しく廃業しなければならぬ事業所が出ている。
<p>11. 高齢者の介護予防と介護サービス、認知症対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none">・老人ホームの充実を図り、安心して老後を暮らせる仕組みが必要。
<p>14. 循環型社会・低炭素社会づくりの推進 等</p> <ul style="list-style-type: none">・富山県は、「環境先進」面でのブランド化を目指すべきである。・廃棄物として埋め立てられている中には、コンクリート塊や石炭灰など再利用できるものも多いので、循環型社会をめざし、民間の協力を得ながら安定型廃棄物を利活用して削減していくことが必要でないか。

<p>18. 清らかな水資源の保全と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富な水資源を活用したクリーンエネルギーの確保が重要。
<p>20. 消防力や地域防災力の強化による防災・危機管理体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ災害が起こっても対応ができる体制を確立することが必要である。また、県民も「自分の身は自分で守る」という意識を持つことが必要である。 ・富山は災害自体の可能性が低いので、多大な設備投資より、いざという時に対応できる組織づくりが大切である。
<p>21. 防災・減災、災害に強い県土づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・橋梁・トンネル、電力施設などの構造物の老朽化が進んでおり、維持管理体制の強化が必要であるが、十分な対応できない市町村もあることから、民間企業やNPO、市民の協力を得ながら、県が主導する体制づくりができないか。また、将来的には、使わない橋を選択する「減橋」といったことが必要となるのではないか。
<p>22. 地震・津波対策、火山対策、原子力災害対策の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭の耐震・免振の建物、構造物への支援を急ぐ。 ・避難場所への周知徹底と防災訓練の浸透を図る。 ・火山（立山）、津波・河川の決壊（神通川、常願寺川など重要河川のハザードマップを作成し、周知徹底）
<p>24. 犯罪の減少と交通安全対策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜の車道は暗く車の運転には細心の注意がいる。設置してある街灯は歩道の明るさを保っているが、車道側にまでは明るさが届かない。夜の街灯をもっと明るくするために自然エネルギーを活用した省エネ照明を取り入れ、数を増やし、夜の街を明るくし、防犯や生活の安全性にもつなげればよい。 ・街なかや、公園等の公共機関の集まる場所（人なども多い場所）に防犯カメラの設置個所の増設が必要。犯罪・交通事故（ひき逃げ等）、テロ予防・抑止に役立ち安心安全の確保が可能と思われる。 ・防犯対策として、防犯カメラ等の充実が必要である。 ・自転車道の確保も重要。サイクリング人口が増え、レクリエーションや通勤・通学に自転車の利用が増加している。現在の自転車道路は狭く、安心・安全とはいえない。
<p>25. 地域公共交通の維持活性化と新たな展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転免許証を手放した高齢者は日常生活に不便を感じ、手放したことを後悔しておられる話を聞く。生活弱者を作らないためにも、生活交通の確保は高齢化社会において大切。 ・高齢者がマイカーに依存しなくてもよい生活交通の確保 バスを使用して「居住する集落→病院→市役所→銀行→スーパー→居住する集落」のように交通が確保されるべき
<p>26. 安全・安心で豊かな住環境づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般家庭の耐震・免振の建物、構造物への支援を急ぐ。